

回想戯曲

作・黒井エミ

登場人物

男 A
男 B
男 C
女 A
女 B

台本上の表記について

セリフ中の () …… a. b. 動作や対象の説明

…… a. b. 同時に同じセリフが言われるとき、一部違うことを示す

以下繰り返す……その後次にその人物のセリフが現れるまで繰り返す。

男 A (M) ……その時点で男 A が※「記憶の欠片」を演じている。

※「記憶の欠片」は登場するキャラクターの一つです。

舞台設定

舞台全体は四角く、棒状のようなもので囲われているため何となく檻を連想させる。

また、背景が黒つぼいまたは白つぼい、棒の色も黒つぼいまたは白つぼい(背景と逆の色)なので葬式の時の幕を連想させる。

床面には白または黒いラインが一定方向に並んでいて横断歩道をイメージさせる。

また、椅子が四つ置かれており、その配置換えによって様々なシーンを表現する。

回想0 客入れ

舞台上には五つの座席。客席に使用されているものと同じものである。

座席の上には客席同様当日パンフレットとチラシが置かれている。

舞台上の照明も客席と同じ明かり。

開演20分ほど前から一人一人と役者が舞台上の座席座る。

まるで自分も芝居を観に来た客かのようにパンフレットやチラシを見ている。

役者間で話してもいい。

開演時刻になると役者はパンフレットを見るのをやめ、客席を見渡す。

その仕様子は客席から舞台を見るそれそのもの。

今からどんな芝居が始まるのかドキドキしたり、集中してみようとメガネを拭いたりしても良い。

開演前のアナウンスが流れる。役者はケータイの電源を確認したりする。

要は自分も客であるかのように振舞い、客席を舞台に見立てて凝視する。

アナウンス 本日は私見感第一回実験公演「回想戯曲」にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

でございます。

開演に先立ちましてみなさんへお願いがございます。

(諸注意を行う)

それでは最後までごゆっくり、ご回想ください。

だんだんと暗転していく。

回想1 日常

舞台の四隅にパイプ椅子がひとつずつ置いてある。

五人の男女が眠っている。

一斉に目を覚まし、何か用事を思い出していそいで家を出ようとする。

ただしある者は仕事、ある者はデート、ある者は友人の結婚式、と別々の目的である。

声を出してはいるが、セリフのように発声しないため断片的にしか聞き取れない。

以下のセリフはその動きを継続しながら言う。

男A 日常的な生活の中で

女A ふと思いつくことがある

男B 繰り返すサイクルの中で

女B ふと引つかかることがある

男C 例えば、ガスの元栓しめつけ

女A とかそんなことではなく

男B 親父、白髪増えたな

女B とかそんなことでもなく

男A あのエロ本拾ったいたら

女A とかそんなんでもない

女B なんだろう、思い出せない

男B 新卒でやらかしたミスのこと

男C 現場でうまくしゃべれなかったこと

女A 去年別れた彼氏にいわれたこと

男A なんかい重い。

女B 浮気したこと

男B 高校の文化祭のこと

男C 女A 記憶のどこか知らない場所で

女B 男A 何かが私(僕)を締めつけている

女B まるで囚われているみたいに

男C 俺はそこから抜け出せない

女A 何か、わからない何かが、
男B 何かを、
男A 忘れてる。
男B 思い出せない。
男C男A 思い出さない。
女AB 思い出したい。
他 例えば、
女B 線香の香。
男B 香る。
男A 赤い。
女A 赤いランドセル。
男B 揺れる。
男A 体操服給食袋。
男B 揺れる。
女B リコーダーの音聞こえる。
男A リコーダー。
女B 利口だね。
男C お楽しみ会。
男B フルーツバスケット。
男A 遠足。
女B お菓子は二百円までです。
女A 動物園。
男B 檻。
女B 先生にそっくりなゴリラ。
男C ゴリラにそっくりな先生。
女B 水族館。
男B 水槽。
女A の、中泳ぐ魚。
男A 泳ぐおじさん。
男C 見上げた水槽はまるで宇宙みたいにキラキラしてた。
女B 宇宙科学博物館。
男B 宇宙トンネル。
男A 宇宙。
女A 広い。
男C 心。
男B女B 揺れる。

女A 荷馬車。
男AB女B 揺れる。
男C どなどな。
女A どなどなーどーなーどーなー。
女B どうなんの？
男A どうなつてたの？
男B どうなんの？
女A 未来。
女B どうなるんだろう。
男A 将来。
男C 将来の夢。
女B 作文。
男AB 将来の夢の作文。

全員、動きを止めて面ふり。

全員 ふと、思い出したことがある。

回想2 記憶の欠片

以下、(M)は記憶の欠片を示す。

男A (M) (全体に) 思い出しましたか。
他 (男Aに) なにを？
男B (女Aに) てか誰だよ。
女A (M) 私はあなたの記憶です。
他 は？
女B (M) (男Cに) 正確にはあなたの記憶の欠片です。
男C (女Bに) いや、どういふことだよ。
男B女A (M) (男Cと女Bに) 私はあなたが記憶の彼方においてきた思い出の欠片です。
男C女B (男Bと女Aに) 思い出の欠片？
男A (M) (男Bに) そう、あなたの記憶の彼方に刺さる、
男B (M) (女Aに) 小さな小さな欠片です。
女A (M) (男Aに) あなたの記憶の、
男A (M) (女Bに) どこか彼方の

女B (M) (男Cに) 欠けてしまった

男C (M) (男Bに) 片鱗です。

男B (男Cに) いやいやいやいや、わけわからないんだけど。

男A (M) (女Aに) 引っかかっているんでしょう？何か。

女A (男Aに) え、ああ、うん。

男A (M) あなたはそれを思い出さなきゃいけない。向き合わなきゃいけない。

女A (男Aに) なんで？

男A (M) (女Aに) それは、あなたの気持ちの問題です。

女A (男Aに) え？

男A (M) (女Aに) あなたが思い出さなきゃいけない、向き合わなきゃいけないと感じてい

るからそうなんです。

女B (男Bに) そうなの？

男B (女Bに) そうなんでしょう。

男B (M) (女Bに) だから、探してください、私のことを。

女B (男Bに) なんであなたを？

男B (M) (女Bに) 言ったでしょう。私は記憶の欠片です。

つまり私が引っ掛かっているものの正体なんです。

女B (男Bに) え、だったらもう見つけてるじゃん。

男B (M) (女Bに) 違います、あなたはちゃんと思いつけていないのです。

だから記憶を遡り、思い出の旅に出かけましょう。

そして探してください私のことを。

全員 (M) 探してください私のことを！

男A と、言うわけで。

男C 本日は

女A 私見感

男B 第一回

女B 実験公演

男C 回想戯曲

男A にお越しいただき

全員 ありがとうございます。

男C 上演に先立った注意事項をいくつか。

他 携帯。

女B 電話は電源をお切りください。

男C ますようお願いいたします。

他 カメラ。

女B 撮影は禁止です。

他 上演。

男A 時間は約六十分を予定しています。

女A それでは最後までごゆっくり、

全員 お楽しみください。

OP パフォーマンス

使用曲・毛皮のマリーズ 「ベイビー・モーション」